神戸市立医療センター中央市民病院
産婦人科研修プログラム

（2018年4月　専門研修開始用）

１. 専門研修プログラムの理念・使命・特徴
２. 専門知識/技能の習得計画
３. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画
４. コアコンピテンシーの研修計画
５. 地域医療に関する研修計画
６. 専攻医研修ローテーション（モデル）（年度毎の研修計画）
７. 専攻医の評価時期と方法（知識、技能、態度に及ぶもの）
８. 専門研修管理委員会の運営計画
９. 専門研修指導医の研修計画
10. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
11. 専門研修プログラムの改善方法

1−1．神戸市立医療センター中央市民病院
産婦人科研修プログラムについて

産婦人科専門医は、周産期領域、婦人科腫瘍領域、生殖・内分泌領域、女性のヘルスケア領域の4領域にわたり、十分な知識・技能を有することは当然として、かつ以下のことが求められています。

・標準的な医療を提供する。
・患者から信頼される。
・女性を生涯にわたってサポートする。
・産婦人科医療の水準を高める。
・疾病の予防に努める。
・地域医療を守る。

神戸市立医療センター中央市民病院は、90年以上の歴史を有し、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため患者中心の質の高い医療を安全に提供してきました。当院は約50年前から病院独自に研修医を採用し、若手医師育成に努めてきた歴史をもち、多数の産婦人科医師を育んできました。「神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科研修プログラム」は、この歴史を継承しつつ、2018年度からの新専門医制度に合わせた形で産婦人科専門医を育成するためのプログラムです。

1-2. 神戸市立医療センター中央市民病院
産婦人科研修プログラムの特徴　1

- 最前線での実地臨床を通して学び、臨床能力を身につけることができる
  当院は年間の新入院患者約21,000人、救急外来患者数約33,000人、救急車搬入件数約10000件弱という多くの症例数を有する。当院をはじめ連携施設の産婦人科も、多くの産科母体搬送、婦人科救急疾患を取り扱っており、産婦人科救急のほとんどの症例を経験できる。

- 高度医療から地域医療まで幅広く研修を行える研修施設群
  すべてのサブスペシャルティー領域（周産期、腫瘍、生殖、内視鏡、女性医療）までカバーする豊富な症例数（正常分娩・合併症妊娠、胎児異常、悪性・良性を問わず腹腔鏡手術を含めた多くの婦人科手術症例や、生殖医療・女性医学症例のみならず先進医療症例）
  を経験できる。

- 質の高い専門的な指導。
  豊富な各サブスペシャルティー専門医（周産期、腫瘍、生殖、内視鏡、女性医療）が直接指導。

1-3. 神戸市立医療センター中央市民病院
産婦人科研修プログラムの特徴　２

- 質の高い臨床研究指導
  多くの論文作成の経験がある本プログラム指導医からの指導に加え、当院「学術支援センター」による研究計画から統計解析手法の講義、相談やデータ抽出、研究データ入力、ポスター作成などの支援が受けられる。

- 京都大学産婦人科をはじめ大学病院や専門病院による臨床および基礎研究のバックアップがある。

- 個々人にあわせてきめ細やかに研修コースを配慮。

- 女性医師も継続して働けるように、労働環境を十分配慮。

２−１．専門知識/技能の習得計画

日本専門医機構産婦人科領域研修委員会により、習得すべき専門知識/技能が定められています（資料1「産婦人科専門研修カリキュラム」および資料2「修了要件」参照）。

＊基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院には

- 医局に専攻医各人専用の机とスペース、
- 産婦人科のカンファレンス室
- 多数の最新の図書を有する図書室

があります。

また院内のインターネットや文献依頼により国内外のほとんどの論文がフルテキストで入手可能です。

2-2. 専門知識/技能の習得計画

当院の週間予定表を表1にしめします。

- 月～金曜日の毎日が手術日で、産科婦人科あわせて週に約25例の手術症例

- 毎朝、

前日の日直・当直の症例の申し送りと振り返り、
前日の手術の振り返り、

- 火曜日と金曜日の朝に術前カンファレンス

これらのカンファレンスで、科内の豊富な症例を医局員全員で共有します。
また、病態・診断・治療計画作成の理論を学んでもらい、産婦人科臨床の基本的な考え方や治療方針の作成を徹底的に鍛えます。
さらに手術技量の向上のために多くの上級医が助言をします。

- 毎週木曜日の朝7:45から、英語論文の抄読会、もしくは各医師が経験した疾患の勉強会を実施し、病態を深く理解するようにしています。

- 火曜日と水曜日にそれぞれ医局員全員での産科と婦人科の病棟回診

2−3．専門知識/技能の習得計画

- 火曜日の朝7:45から学会発表の予演会や報告会を行います。日本産科婦人科学会、近畿産科婦人科学会などの学術集会に専攻医が積極的に発表し（学会発表2-3/年、論文作成1-3/3年）、スライドの作り方、データの示し方について学べるようにします。

- 他科との合同カンファレンス
  月曜日の朝に放射線診断科および放射線治療科
  木曜日の朝に、病理診断科および腫瘍内科との合同カンファレンス
  月曜日の夕方に新生児科との合同カンファレンスや産科症例の振り返り

- 病棟スタッフとのカンファレンス
  月曜・金曜の夕方にそれぞれ産科・婦人科病棟スタッフとのカンファレンス

＊当プログラムでは、すべての連携施設において1週間に1度の診療科におけるカンファレンスおよび1ヶ月に1度の勉強会あるいは抄読会が行われています。

＊これまで当院産婦人科主催の研究会が年に3回、および兵庫県産婦人科学会をはじめ京都大学や各種研究会や講演会ご多数開催されています。これらは「神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科研修プログラム」全体での学習機会となります。

表１：神戸市立医療センター中央市民病院
産婦人科週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
745		学会予演会・報告会		抄読会・症例カンファレンス	
800	放射線診断・治療カンファレンス		症例検討・前日op振り返り・当直申し送り		症例検討・前日op振り返り・当直申し送り
815		症例検討・前日op振り返り・当直申し送り		病理・腫瘍内科合同カンファレンス	
830	症例検討・前日op振り返り・当直申し送り		術前カンファレンス		術前カンファレンス
		産科病棟回診	婦人科病棟回診	症例検討・前日op振り返り・当直申し送り	
900	手術	手術	手術	手術	手術
1730	周産期カンファレンス				婦人科病棟カンファレンス
1800	スポンサードレクチャー				

３．リサーチマインドの養成・学術活動に関する研修計画

研究マインドの育成は、診療技能の向上に役立ちます。診療の中で生まれた疑問を研究に結びつけて公に発表するためには、日常的に標準医療を意識した診療を行い、かつその標準医療の限界を知っておくことが必須です。修了要件（資料2)には学会・研究会での１回の発表および、論文1編の発表が含まれています。

広く認められる質の高い研究を行うためには、良い着眼点に加えて、正しいデータ解析が必要です。そして学会発表のためには、データの示し方、プレゼンの方法を習得する必要があります。さらに論文執筆にも一定のルールがあります。当プログラムにはそれを経験してきた指導医が多く在籍し、適切な指導を受けることができます。

基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院において、日本産科婦人科学会等の学会発表および論文執筆を目指し、さらに連携施設在籍中も積極的に学会発表および論文執筆を目指します（学会発表2-3/年、論文作成1-3/3年）。

４．コアコンピテンシーの研修計画

医療倫理、医療安全、感染対策の講習会を各１単位（６０分）ずつ受講することが修了要件（資料2）に含まれています。

神戸市立医療センター中央市民病院では、医療安全、感染対策に関する講習会が定期的に行われており、それぞれ１年に2度の受講が求められています。さらに医療倫理に関する講習会も定期的に行われています。したがって、神戸市立医療センター中央市民病院での研修期間中に、必ずそれらの講習会を受講することができます。さらにほとんどの連携施設で、それらの講習会が行われています。

５．地域医療に関する研修計画

当プログラムの研修施設群の中で、地域医療を経験できる施設は以下の通りです。いずれも地域の中核的病院であり、症例数も豊富です。

・尼崎総合医療センター（兵庫県尼崎市）
・公立豊岡病院（兵庫県豊岡市）
・兵庫県立がんセンター（兵庫県明石市）

これらの病院はいずれも地域医療を高い水準で守っています。当プログラムの専攻医は、これらの病院のいずれかで少なくとも１度（1ヶ月以上）は研修を行い、外来診療、夜間当直、救急診療、病診連携、病病連携などを通じて地域医療を経験します。いずれの施設にも指導医が在籍し、研修体制は整っています。

６−１．専攻医研修ローテーション

年度毎の標準的な研修計画

- 1年目；

内診、直腸診、経腟・腹部超音波検査、胎児心拍モニタリングを正しく行える。上級医の指導のもとで正常分娩の取り扱い、通常の帝王切開、子宮内容除去術、子宮付属器摘出術ができる。婦人科の病理および画像を自分で評価できる。

- 2年目；

妊婦健診および婦人科の一般外来ができる。正常および異常な妊娠・分娩経過を判別し、問題のある症例については上級医に確実に相談できる。正常分娩を一人で取り扱える。上級医の指導のもとで通常の帝王切開、腹腔鏡下手術、腹式単純子宮全摘術ができる。上級医の指導のもとで患者・家族のICを取得できるようになる。

- 3年目；

帝王切開の適応を一人で判断できる。通常の帝王切開であれば同学年の専攻医と一緒にできる。上級医の指導のもとで前置胎盤症例など特殊な症例の帝王切開ができる。上級医の指導のもとで癒着があるなどやや困難な症例であっても、腹式単純子宮全摘術ができる。悪性手術の手技を理解して助手ができ、通常の症例では上級医の指導のもとで執刀ができる。一人で患者・家族のICを取得できるようになる。

6−2. 専攻医研修ローテーション

研修ローテーション

- 専門研修の3年間のうち1-2年間を、多様な症例を経験できる神戸市立医療センター中央市民病院で研修を行います。残りの1-2年は連携施設で研修を行います。当プログラムに属する連携施設は、いずれも豊富な症例数および指導医による研修体制を有する地域の中核病院で、婦人科手術件数の多い施設や分娩数の多い施設など、それぞれ特徴があります。
（後述、研修施設群一覧　1、2、研修施設紹介）。

- なお地域医療を経験できる施設で少なくとも1度は研修（1ヶ月以上）を行う必要があります。
- 結婚・妊娠・出産など、専攻医一人一人の事情にも対応してローテーションを決めていきます。

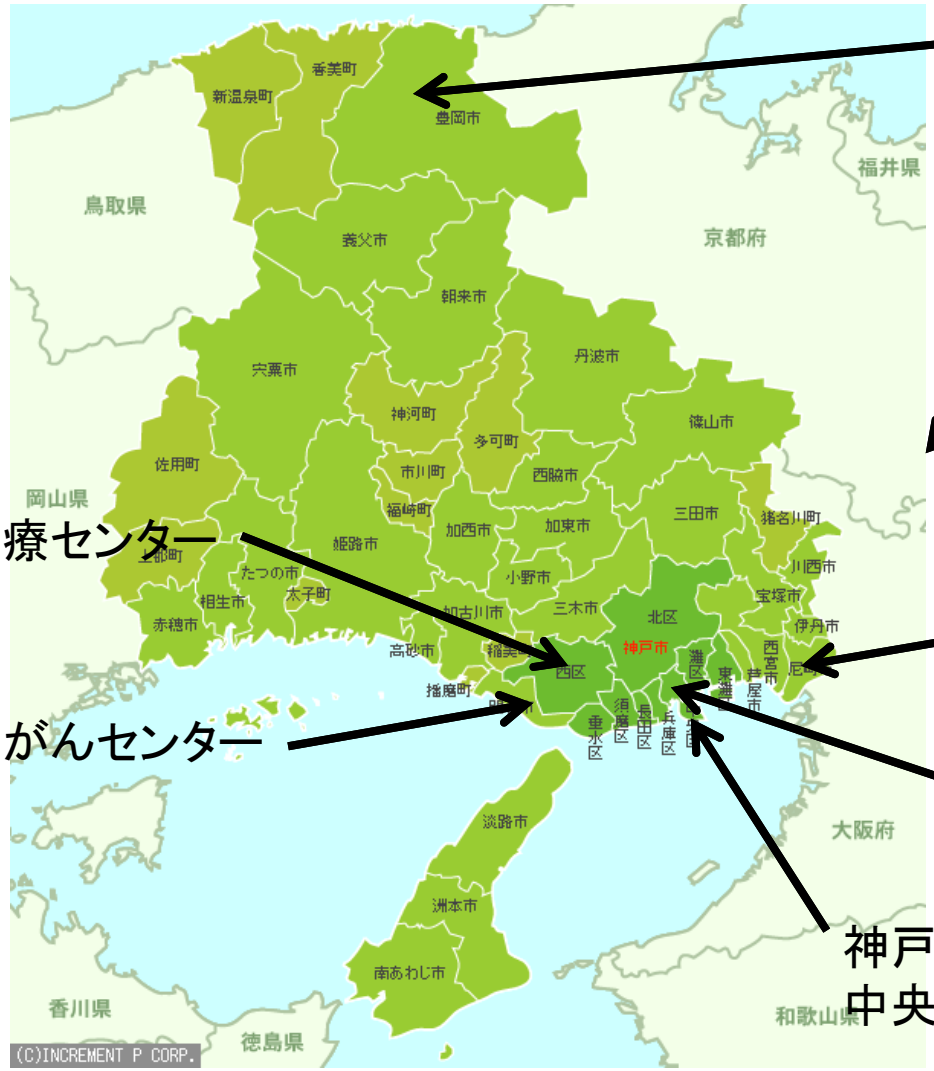
6−3. 専攻医研修ローテーション

研修終了後のサブスペシャリティの取得に向けて

神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科研修プログラムは専門医取得後に以下の専門医・認定医取得へつながるようなものとなってます。

・日本周産期・新生児医学会　母体・胎児専門医
・日本婦人科腫瘍学会　婦人科腫瘍専門医
・日本生殖医学会　生殖医療専門医
・日本女性医学学会　女性ヘルスケア専門医
・日本産科婦人科内視鏡学会　技術認定医

研修施設群一覧　1



公立豊岡病院組合立豊岡病院

京都大学医学部附属病院

西神戸医療センター

兵庫県立尼崎
総合医療センター

兵庫県立がんセンター

英ウィメンズクリニック

神戸市立医療センター
中央市民病院

研修施設群一覧　２

	分娩数	新規浸潤癌症例数	良性腫瘍手術件数	生殖補助医療症例数	特徴
神戸市立医療センター中央市民病院	772	121	776	0	総合周産期母子医療センター がんセンター
兵庫県立尼崎総合医療センター	634	34	137	0	総合周産期母子医療センター
公立豊岡病院組合立豊岡病院	841	14	97	0	地域周産期母子医療センター
西神戸医療センター	727	61	440	0	
兵庫県立がんセンター	0	276	280	0	がんセンター
京都大学医学部附属病院	334	131	157	106	地域周産期母子医療センター がんセンター
英ウィメンズクリニック	0	0	846 （主に子宮鏡手術）	2316	不妊治療に特化

（症例数は２０１４年のもの）

研修施設紹介　1

施設名	神戸市立医療センター中央市民病院
指導責任者	吉岡　信也
指導医数	2 名
医師数	16 名 （産婦人科専門医　11名、 専攻医　5 名）
病床・患者数	病床数　産婦人科　40 床 （MFICU 6 床） 新生児　21 床(NICU 9 床、GCU 9 床) 婦人科手術　約 900 件／年 浸潤癌手術　約 100 件／年 腹腔鏡下手術　約 400 件／年 分娩　 約 800 例／年 母体搬送　 約 110 件／年
病院および研修の特徴	神戸市のみならず兵庫県南部の中核病院として産科、婦人科の豊富な症例を経験できます。産科部門では、母体救急救命分野で地域の中心的役割を果しています。婦人科では地域のがんセンターとして県内有数の婦人科悪性腫瘍治療を行っています。婦人科悪性腫瘍に対する内視鏡手術症例も豊富です。また良性疾患の手術症例も多く、年間約 400 件の腹腔鏡下手術があります。 産婦人科領域のほぼすべての疾患 （不妊治療を除く）が経験できます。 当院のもう一つの特徴は、産科・婦人科ともに救急症例が多く、緊急手術が豊富なことです。2人当直体制ですので、夜間や休日も上級医の指導をうけながら救急疾患の対応を学ぶことができます。 産婦人科専門医取得後のサブスペシャリティの資格取得に関しても、ほぼすべての領域に対応可能です。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専攻医指導施設 日本周産期新生児学会専門医（母体・胎児）基幹認定施設 日本婦人科腫瘍学会指定修練施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本生殖医学会認定研修連携施設

施設名	兵庫県立尼崎総合医療センター
指導責任者	廣瀬　雅哉
指導医数	2 名
医師数	7 名 （産婦人科専門医　7 名、 専攻医　0 名）
病床・患者数	病床数　産科　36 床 （MFICU 6 床)、婦人科 12 床 新生児　27 床(NICU 9 床、GCU 18 床) 婦人科手術　約 230 件／年 浸潤癌手術　約 30 件／年 腹腔鏡下手術　約 40 件／年 分娩　 約 650 例／年 母体搬送　 約 110 件／年
病院および研修の特徴	産科・周産期では、総合周産期母子医療センターとして母体胎児集中治療室（MFICU）6 床を有し、ハイリスク妊娠・分娩を取扱い、緊急母体搬送を受け入れています。27 床の新生児病床（NICU9 床、GCU18 床）、小児外科、小児循環器内科・外科があり、先天性疾患・胎児疾患に対応してます。ローリスク妊娠・分娩はメディカルバースセンターで助産師主導で対応しています。また、地域の診療所と連携して産科セミオープンシステムを導入しています。重症母体疾患は集中治療室（GICU 等）で管理することが可能です。また、産科出血には、放射線科・麻酔科と協力してアンギオ室やハイブリット手術室で治療を行うことが可能です。婦人科悪性腫瘍の治療では、放射線治療が可能であり、抗癌化学療法を外来化学療法室等で行っています。胎児診療外来、CIN 外来、NIPT 外来、出生前診断外来といった専門外来を開設しています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専攻医指導施設 日本周産期・新生児医学会専門医（母体・胎児）基幹認定施設 臨床遺伝専門医制度研修施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本母体保護法指定医師研修医療機関 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録施設

研修施設紹介　2

施設名	公立豊岡病院組合立豊岡病院
指導責任者	野々垣 比路史
指導医数	1 名
医師数	6 名 （産婦人科専門医 4 名、 専攻医 2 名）
病床・患者数	病床数 産婦人科 44 床 新生児 12 床（NICU 6 床、 GCU 6 床） 婦人科手術 約 144 件／年 浸潤癌手術 約 10 件／年 分娩 約 809 例／年 母体搬送 約 4 件／年
病院および研修の特徴	病院のある豊岡市のみならず、産婦人科医療機関の少ない兵庫県北部から京都府北西部までの地域の中核病院であり、がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センターとして悪性腫瘍から周産期まで、高度の生殖補助医療を除く産婦人科のほとんどの領域の疾患に対応している。悪性腫瘍には、手術・化学療法・放射線療法を行っている。良性疾患に対しては、内視鏡手術を行うこともある。産科では特に経腟分娩を重視し、骨盤位でも帝王切開既往でもできる限り経腟的に行っている。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設 母体保護法指定医師研修医療機関

施設名	西神戸医療センター
指導責任者	竹内 康人
指導医数	2 名
医師数	10 名 （産婦人科専門医 7 名、 専攻医 3 名）
病床・患者数	病床数 産科 20 床、 婦人科 25 床 新生児 5 床 婦人科手術 約 620 件／年 浸潤癌手術 約 50 件／年 腹腔鏡下手術 約 270 件／年 分娩 約 740 例／年 母体搬送 約 45 件／年
病院および研修の特徴	平成 6 年 8 月に開院以来、神戸西地域の中核病院として地域住民の様々な悩みに応える診療を目標にしています。産婦人科では、一次診療から高度専門医療にまで対応できる体制下で、良質で安心と信頼の得られる医療の提供を目指しています。 総合病院という特徴を生かした診療を心がけていますので、あらゆる産科疾患、婦人科疾患を経験することができます。各医師ともほぼ均等に産科診療にも婦人科診療にも関与するようにしています。原則、チーム医療体制をとっていますので、ON、OFF を区別してもらっています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専攻医指導施設

研修施設紹介　3

施設名	兵庫県立がんセンター　婦人科
指導責任者	山口　聡
指導医数	2 名
医師数	10 名（産婦人科専門医　9 名、 専攻医　1 名）
病床・患者数	病床数　婦人科　41　床 婦人科手術　約 644 件／年 浸潤癌手術　約 200 件／年 腹腔鏡下手術　約 20 件／年 分娩　　約　0 例／年 母体搬送　約　0 件／年
病院および研修の特徴	都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けており、「日本産科婦人科学会専攻医指導施設」に加えて「日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医修練施設」となっています。サブスペシャリティである婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医の取得可能です。また、新薬の治験や臨床試験にも積極的に参加し、最新の治療を患者様に提供できるよう努力しています。 がんの治療方法は、手術、放射線治療、化学療法などを組み合わせ、多岐にわたりますが、どのような治療を受ける場合でも、きちんとした説明を受けて、患者さんと御家族が納得して治療を受けることが重要です。当センターでは、「科学と信頼に基づいた最良のがん医療を推進します」を基本理念とし、患者さんと医療スタッフとの信頼関係をもっとも大切にして診療を行い、がん患者を支援する「チーム医療」を実践しています。がんの治療はますます高度化、専門化していることから、初期治療から経過観察、看取りまでのすべてを、単独の病院のみで行うことは困難となっています。「地域医療連携室」や「がん相談支援センター」を通して、当センターと地域の他の病院・診療所との連携を密にし、がん患者さんの回復と社会復帰を支援できるよう努力しています。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専攻医指導施設 日本婦人科腫瘍学会指定修練施設

施設名	京都大学医学部附属病院　産科婦人科
指導責任者	松村謙臣
指導医数	8 名
医師数	25 名（産婦人科専門医　15名、 専攻医　10 名）
病床・患者数	病床数　産科 25 床、婦人科 55 床 新生児　21 床(NICU 9 床、GCU 12 床) 婦人科手術　約 585 件／年 浸潤癌手術　約 150 件／年 腹腔鏡下手術　約 108 件／年 分娩　約　339 例／年 母体搬送　約　140 件／年
病院および研修の特徴	当院は、産科・婦人科領域の一般的な疾患から、高度医療を必要とする疾患まで、多様な症例を受け入れています。当院では、診療科でのカンファレンスと、婦人科病理および画像のスペシャリスト、小児科医師、放射線治療科との合同カンファレンスを通して、質の高い教育を受けることができます。また、学会発表、論文執筆の指導も綿密に行っており、できれば英文誌への投稿も目指します。
学会認定施設	日本産科婦人科学会専攻医指導施設 日本周産期・新生児医学会専門医（母体・胎児）基幹認定施設 日本婦人科腫瘍学会指定修練施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本生殖医学会認定研修施設

研修施設紹介　4

施設名	医療法人社団 英ウィメンズクリニック
指導責任者	塩谷 雅英
指導医数	1 名
医師数	20 名 （産婦人科専門医　19 名、 専攻医　0 名）
病床・患者数	病床数　産婦人科　1 床 新生児　0 床 婦人科手術　約 1,560 件／年 浸潤癌手術　約 0 件／年 腹腔鏡下手術　約 0 件／年 分娩　 約 0 例／年 母体搬送　 約 0 件／年
病院および研修の特徴	生殖医療指導医 2 名、生殖医療専門医 4 名、臨床遺伝専門医 6 名が在籍しており、日本でも有数の実績、規模を誇る不妊治療専門施設です。 採卵 5,600 件、移植 5,500 件、子宮鏡検査 3,600 件、子宮卵管造影 1,920 件、卵管鏡下卵管形成術 400 件などの年間実績があり、豊富な症例数を経験することができます。また、PGD(着床前診断)実施に関する認可施設でもあり、がん患者の妊孕能温存なども行っております。 多くの専門医、豊富な症例数のもとで、最先端の不妊治療に関して研修を行っていただけます。
学会認定施設	生殖医療専門医制度認定研修施設

7. 専攻医の評価時期と方法

＊到達度評価

研修中に自己の成長を知り、研修の進め方を見直すためのものです。当プログラムでは、毎年３月末までの経験症例等の研修内容について、４月末までに専攻医が研修目標の達成度および態度および技能について、Web上で日本産科婦人科学会が提供する産婦人科研修管理システム（以下、産婦人科研修管理システム）に記録し、指導医がチェックします。態度についての評価には、自己・指導医による評価に加えて、指導医あるいは施設毎の責任者により聴取された看護師長などの他職種による評価が含まれています。なおこれらの評価は、施設を異動する時にも行います。それらの内容は、プログラム管理委員会に報告され基幹施設の指導医を中心として評価し、その後の専攻医の研修の進め方を決める上で重要な資料となります。

＊総括的評価

専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後）の3月末時点での研修記録および評価、さらに専門研修の期間、到達度評価が決められた時期に行われていたという記録に基づき、産婦人科研修管理システムを用いて研修修了を判定するためのものです（修了要件は資料2 に記載）。手術・手技については各施設の産婦人科の指導責任者が技能を確認します。

専攻医は産婦人科研修管理システム上で専門研修プログラム管理委員会に対し修了申請を行います。研修プログラム管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修修了証明書を専攻医に送付します。専攻医は各都道府県の地方委員会に専門医認定試験受験の申請を行います。地方委員会での審査を経て、日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会で専門医認定一次審査
受験の可否を決定します。

８．専門研修管理委員会の運営計画

当プログラム管理委員会は、基幹施設（神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科）の指導医 2名と6カ所の連携施設担当者の計 8名で構成されています（資料3）。プログラム管理委員会は、毎年 1～3月に委員会会議を開催し、さらに通信での会議も行いながら、専攻医および研修プログラムの管理と研修プログラムの改良を行います。

主な議題は以下の通りです。

・専攻医ごとの専門研修の進め方。到達度評価・総括的評価のチェック、修了判定。
・翌年度の専門研修プログラム応募者の採否決定。
・連携施設の前年度診療実績等に基づく、次年度の専攻医受け入れ数の決定。
・専攻医指導施設の評価内容の公表および検討。
・研修プログラムに対する評価や、サイトビジットの結果に基づく、研修プログラム改良に向けた検討。

９．専門研修指導医の研修計画

日本産科婦人科学会が主催する、あるいは日本産科婦人科学会の承認のもとで連合産科婦人科学会が主催する産婦人科指導医講習会が行われます。

そこでは、産婦人科医師教育のあり方について講習が行われます。指導医講習会の受講は、指導医認定や更新のために必須となっています。

さらに、専攻医の教育は研修医の教育と共通するところが多く、当プログラムに在籍している指導医の全員が「医師の臨床研修に係る指導医講習会」を受講し、医師教育のあり方について学んで、医師臨床研修指導医の認定を受けています。

10. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

当プログラムの研修施設群は、「産婦人科勤務医の勤務条件改善のための提言」(平成25年4月、日本産科婦人科学会）に従い、「勤務医の労務管理に関する分析・改善ツール」（日本医師会）等を用いて、専攻医の労働環境改善に努めるようにしています。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従っています。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を受けます。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は当プログラム研修管理委員会に報告されます。

当プログラムでは、近年非常に増加している女性医師が継続して勤務できる環境作りのため、夜間・病児を含む保育園の整備、時短勤務なども目指しています。

11. 専門研修プログラムの改善方法

総括的評価を行う際、専攻医は指導医、施設、研修プログラムに対する評価も産婦人科研修管理システム上で行います。また指導医も施設、研修プログラムに対する評価を行います。その内容は当プログラム管理委員会で記録され、研修プログラム改善に役立てます。そして必要な場合は、施設の実地調査および指導を行います。また評価に基づいて何をどのように改善したかを記録し、毎年日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に報告します。

さらに、研修プログラムは日本専門医機構からのサイトビジットを受け入れます。その評価を当プログラム管理委員会で報告し、プログラムの改良を行います。研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構に報告します。

専攻医や指導医が専攻医指導施設や専門研修プログラムに大きな問題があると考えた場合、当プログラム管理委員会を介さずに、いつでも直接、下記の連絡先から日本産科婦人科学会中央専門医制度委員会に訴えることができます。この内容には、パワーハラスメントなどの人権問題が含まれます。

日本産科婦人科学会
住所：〒104-0031　東京都中央区京橋3-6-18　東京建物京橋ビル　4階
電話番号：03-5524-6900
E-mailアドレス：chuosenmoniseido@jsog.or.jp

12. 専攻医の採用と修了

- 採用方法

毎年7月から次年度の専門研修プログラムの公表と説明会等を行い、産科婦人科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、11月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出する。12月の本プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定します。なお、定員に満たない場合には、追加募集することがあります。

- 修了要件　　資料2参照